



自治の精神高らかに

秋田大学教育文化学部附属中学校
令和2年6月8日 発行 No. 2 文責 櫻庭

新しい生活様式による学校が本格的に始動！

3月、4月の臨時休校、5月の分散登校、試行期間を経てようやく本校でも学校生活が本格的に始まりました。長期間にわたり、「自発・創意・責任」の附中三精神を発揮して、自主学习や自律的な生活を続けてきた子どもたちは、着実に成長しています。5月に実施した生活アンケートにも子どもたちの成長が、たくさん紹介されていました。



▲楽しそうに弁当を食べる1年生

- 休校中でも気持ちを沈めることなく「今だからできる」「今しかできないこと」を自分なりに考えながら、時間を有効に使い、楽し過ごすことができていました。(3年保護者)
- 「ありがとう」とか感謝の気持ちを素直に言えるようになり大人になっつつあるなど感じる。お手伝いも積極的にするようになり成長を感じる。(2年保護者)
- 保護者が日中いないために、子ども一人で過ごすことがほとんどでしたが、身の回りのことを自分の力でこなすことができました。自立心が育ったと思います。(1年保護者)



▲屋上で昼休みを楽しむ2年生

子どもたちの安心・安全を確保するとともに、各ご家庭で子どもたちの学習や成長を支えてくださった保護者の皆様の温かいご支援とご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

◇「休校期間の生活アンケート」（5月実施）の質問や不安などへの回答

※複数の生徒や保護者が書いていた内容を集約し、それに対する学校としての回答をまとめたものです。

Q1 休校した分、夏休みなどが短縮されるのを知りたいです。

先週末にお知らせしたように、夏休みは、7月31日（金）～8月19日（水）に短縮する予定です。振替授業日となる7月27日（月）～29日（水）は4校時で昼食あり、7月30日（木）と、8月20日（木）～25日（火）（土日を除く）は、6校時の授業を行う予定です。

Q2 今後、学習時間（授業時間）の不足をどのように回復していくのを知りたいです。

臨時休校により実施できなかった授業の時数は、3年生が約100時間、1, 2年生が約110時間です。その授業については、次のようにして回復していく予定です。

- 公開研究会や中総体など、各種行事の中止による授業の増加＝約40時間
- 長期休業の振替＝夏休み40時間（8日）、秋休み12時間（2日）、冬休み6時間（1日）
- 本来5校時である水曜日の6校時目の実施による授業の増加＝9時間

Q3 休校した分、普段の授業のスピードが速くなってしまふのかが心配です。

Q2の回復措置により、文部科学省が示している標準時数を3月末までには各学年共に30時間～40時間上回る予定ですので、授業のスピードが例年以上に速くなってしまふことはありません。全ての教員が、これまでと同じように一人一人の学習の状況に応じた授業を行い、「全ての生徒の分かってほしい、できるようになりたい」という願いに応えていきますので安心してください。

Q 4 7時間授業になると放課後の活動に影響が出るのではないかと心配です。

新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波による臨時休校にも対応できるよう、7時間授業を実施し、できるだけ学習を進めておきたいと考えています。3年生は9月～12月までに、1、2年生は10月～3月までに20時間程度、7時間授業を実施する予定です。夏休み前は実施しないので、3年生を中心に部活動や生徒会活動、学校行事を充実させてほしいと願っています。

Q 5 感染症対策で、ミエルトークなどの話し合い活動が減少するのではないかと心配です。

文部科学省のガイドラインにも「適切な感染症対策を講じた上で、新学習指導要領において示している主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う」とあります。楽しく、分かる学習を行うためには、対話は不可欠です。本校では不要不急の話し合いは行いませんが、学習のねらいを達成するための「必要火急の話し合い」は、感染防止に努めながら実施しますので安心してください。

Q 6 学習の遅れが心配です。3月分の学習も完全に終わっていない部分もあると思うので再確認できる機会があればよいと思います。

未習や習得の状況が心配される学習内容については、今年度の指導計画に組み入れて確実に指導します。また、6月に実施する1、2年生の課題テストの範囲に、3月分の学習内容を含めることにより、習得状況を確認し、その結果に応じて補充指導を行います。3年生については、今後実施される各実力テストの結果を分析し、必要に応じて補充指導を行っていきます。

Q 7 学校の課題には取り組んでいましたが、内容をしっかり理解できているのか、定着しているのかが心配です。

学校で育成をめざしている資質・能力は、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」です。臨時休校期間に、進んで課題に取り組んだ生徒は、「学びに向かう力」が着実に向上しています。すぐに理解できたり、定着したりしたことは、すぐにはがれ落ちるものです。何度も繰り返すことでしか本物の学力は身に付きません。臨時休校期間に培った「学びに向かう力」を発揮し、地道に学習を重ねていきましょう。

Q 8 外に出ることができず、運動不足なので体力の低下が心配です。また、急に部活動が始まり、ケガをしないかも心配です。

例年実施している運動能力テストを実施し、一人一人の体力の状況を把握するとともに、体育の授業を中心に、運動量を増やしていく予定です。昼休みにも体育館などを開放し、体を動かす機会を確保しています。運動部については、6月から練習試合が再開するなど、活動が本格化します。これまで以上に子どもたちの健康状況に気を配り、ケガや熱中症の予防に努めてまいります。

Q 9 臨時休校期間中に我慢を強いられたストレスが、どのような形で表れてくるのかが心配です。

私たちもそのことを心配しています。例年、学校が始まってから1か月程経った5月に、体力的にも精神的にも疲れが出てくる子どもがいます。例年以上にストレスが大きかった今年は、今後、心身のバランスが崩れる子どもが出ることも想定されます。私たち教員も子どもたちをよく見て、変化を捉えるようにしますので、各ご家庭でも目配りと心配りをよろしくお願いいたします。

Q 10 修学旅行等、中学校生活でしか体験できない行事が予定どおり行えるのか心配です。また、中総体などが中止になり、子どものモチベーションが下がっていることが気がかりです。

学校行事等も含めた「学校教育ならではの学び」は、子どもの心の成長につながります。教職員だけでなく、生徒や保護者の創意も結集し、附中らしい学校行事を創っていきたくと考えています。「新たな形の行事」を創造するチャンスだと考え、心を一つにして頑張っていきたいと思います。